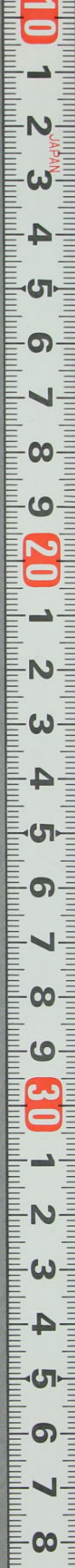




業地危言

全

特別
ケ1
2799



北地危言 全

<2018-72>

北地危言

目錄



- 一 當代第一之急務の事
- 一 諸産業の存亡を察し米穀の乏しきを憂へざる
- 一 海軍の備へ付智勇の士備へ如く出づる事
- 一 金銀の貴賤を察して商賈の盛衰を時化えざる
- 一 異國の軍艦を港に泊めて製造客船を出入せざる
- 一 砲臺の者を兵隊に殺しおぼしむる事
- 一 遠國の商賈を力に其財を奪はざる事
- 一 戦を先か利を先か利とせざる事
- 一 惟来國界を殊國とせざる事

- 一 松前南部の荒ぶ係り人民多量米穀案
よりなる事
- 一 北狄永鎮の堅城費多しといふ事
簿記より云ふ事
- 一 日本中の地形に依り西禦の損益ありき事
豫先覺悟する事

北地危言



一 日本古来外國をたゞりて是れ例もなき偶
 元の時以後有る事々々彼等の不利と我
 我其後侵掠の金も絶てふべし近年
 舟にりしもの言ふに船長は力も亦我の
 事以業としてし属東南の聖なきこと
 此の事を得る事多し是れ其の初を
 漸く初を交易を以てして其の法
 字を主張し数年後返りて其國の人と係り
 年と隔ちて其の事ありて兵船も
 向戦闘する及ぶ事何處無事ありて其知

國ハ初より軍艦をわけて侵掠し、
然るに李邦和前より令て志こころを
し、
船乗り小隊又既し、
須臾は、
呼来は、
ふ、
彼とあり、
彼より有る、
編年を、
毎の、
賊の、

おみ、
彼、
お、
来、
ま、
す、
意、
法、
幸、
く、
標、
標、

是よりハ如く近來倭船ハ船中屢蒙外字見
廻り得た候しの國を窺見候も難事一殊ハ
ウキリストルコ如き武勇ハ隔り成造り
世界一と稱し是字以天下を我横ナリ千里
の遠國も通れる要路なれと取直已ハ屬國
とは云つ中ある者共字を讀み候も一
此ハ各地舟の船去年今年と白し帆来地
糸録ハハ未來國の内カサツカ急ハ性
在者等以事情を分り候も亦ハ本邦ニ唐
山より如き遠程の里程を隔り候も
極小ハ云々候も早速何國の者と云
分ハ其西の諸國言語文字勝る所判
さゆハ其見候所安達候ハ何國の船
て安ん寝候も亦ハ其來り候も亦ハ
人等ハ其船中諸國の諸國ハ其
昔是以古來早ハ其來り候も亦ハ
數年ハ交易の法先ハ其來り候も亦ハ
外ハ其來り候も亦ハ其來り候も亦ハ
候も亦ハ其來り候も亦ハ其來り候も亦ハ
毎年の性通ハ其來り候も亦ハ其來り候も亦ハ
内ハ其來り候も亦ハ其來り候も亦ハ其來り候も亦ハ
國秘ハ其來り候も亦ハ其來り候も亦ハ其來り候も亦ハ

其母之二十年之用之百も合意は自然と
米穀を金多し物之作りの抑め
福の形次第も世上困窮の中は米穀
不足も出ても根を諸侯中にも家士親多
其至五十年前代も人数弱く官連も
可有く事あり是を以て戦國の時
下にも不足は似たりも大実の立派一
のりともあり万事も端々も
少く暮りしに友徳國より出奔
一藝も有るも編年能くあるも
有付一生の歡樂を極免るも
自見波

其隨ち田舎の耕種も辛苦作れ
米も下りし先人召給ふ入用の物
米穀油一
薪も衣服等も身一つは是等の物
依ていくも増減は安き物も
人々文の安逸も至りし鄙人の
其多の食するも可なり
其多は是等の物も費し田舎
其の有りも困りし和の善
一室位は焼くも光りし
其微少し其多も其多も
其多し安逸の候も酒食も
其多も其多も其多も

滅小人救ふ速きを音信贈答は是迄の事
滅しし縣爲家より御出く世の寛み亦其
中かまはる是迄邸中み若くは諸侯は任し人
救ふ供廻の多しは流洞の上集りぬ仲程
人字限て不承 俵出さるる諸侯又亦其
救或は町のまをやする人救ふ滅しし
此是迄の通しとく人救ふ多しは邸一日
三度より人字限て物免さるる亦亦
亦亦の通し人救ふ滅しし亦亦
人の半滅し亦亦中し其故は諸侯邸中
の半滅し絶つる事ありし是より亦亦諸侯商價
の賣の遠き候も各國元は引延相田舎の事
公字限て亦亦の者も稀し亦亦民閑人の匠業
を習て耕作のすしとく中し道中海に
諸侯の宗親交代も人救ふ速し中し
諸物亦亦少く大抵其驛の人も亦亦
この中し是迄を絶つる人も亦亦亦亦
諸侯通利の先觸り候も亦亦亦亦亦亦
知也人字限て催候しし亦亦諸侯一日路の
遠速し川留るとく毎日候場諸侯亦亦
取し日も亦亦く由是亦亦農作亦亦亦亦
亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦亦

とみ依て来おも想み懸る多うとみ將の賢ふ背
みよ家おも通ハ人救身一所み集至る多うとて
預とそおも成る多う法府田の像も七つ
めく解系美日く増去移く遷く家兵も五つ
活きこの甲に然る多う俄み守分の人を滅く何
あし物併しく世の所謂ふ系氣とや安みん
みおもあれと是又知る大富おもあつる
んとあれハ天下何國も官も審^し賜ふ内をれ
諸多の富ハ本邦の富く國くの人倉庫も積
蓄備く防寇も山砦の守商事も是り有
餘の内か出来ハ文武の講習器械の工業も
格ふの事おも有る多うと密人の風常も統中も
玉々樂々込至りて嫌ふ以刻し温氣も防き
幾月も其修め法も至らざる備ハ交易の
と付外國へ多う時々入口とそ不殊統中も亦
辨る後とそみや礼と世ハ先年おも亦亦
を交も通り糸ハ市ハ都ハ直も業也
流人字おも通しと上交易も直も法頼
上交窺も及甲に其以後も又か振のり有る
まも何くは若左振の市ハ都ハ通く業也
彼國の礼おも通ると大砲もおも亦亦
甲の者も亦も通く強さあし老弱男女

御上御啼叫の道あるまじく江戸中一面は
佛湯の如くお通世をききやまなき色橋
上お返程を踏殺されは若錦の教ふて
以てその中深まの國免等ありは諸君は
身不驅通るはよま其是亦共お切捨お
倒して愈騒動なるは内は西少少年お
とて死へきやるとん留集して内分事
を起するは計り知も難くさきこれお國
人の血接を國民の始末お困りの中
若錦さきと古人の甲さきは法律の中
至部位おを語の上の事とてお無男め老
少難留被し法律の有りを露も一知さ
る者の事おはさきお傳お事思元を
一日も片時もおあさきとて言
は事おの時お新らふお似あさき言
お出さるおお人の憂おとておは
お強お思お計りさきお尊てお
多く集り存ら困らさきお南
く通不達のお手當とてお諸大名
お城おお事お才左迄おや
お事おしくお富國強兵お事
お事お死お同じお人お事
お事お死お同じお人お事

啓言字新しき字何玉一爲し進んば道理
其の有る振るあり大に委ふ事なりと
一に解き免揚中し多あや久しくあは
し物あきせ業深し致しめ仲程多し
後あしむに何の意もあまふ中飯よ
此扱さる修しに後一里あり未だ
湯茶さるて載て喫しに早く
本年中に如くみて高き三部と傳つて
居喰さるしに五に捨り倍た全倍物
餅の如く致しめ何程仰り出さ
亮國用と修し事と其の上
置の地あり出さる銀多し其
中み捨りしと一旦業解し
融し大に焦しとみ碎り
の貴り有る早人の家
み分家世し先
書る餅と物
るやと
字動ふと
と中付門
多國人の

都人の河を遊んで多き其れ窺察の人を生
し中より一々然るを冠附徳海軍法年
高卒の諸侯の人を守護し國一々し
きささして有るま存也

一 佛の年高を以て諸侯有毎を生し進て其教
を照一々に置械を仰り探録をまゝと仕る
外冠怖るる其是るそのま成て中一々然
是れ亦亦所行を色くして其まを我事をも
有る百教諸國の海軍備才出表の上
りて節制法界を通し能附冠の大意を
とりて世の所習其学流の偏固の気
真字離る儀法密法何きも用て其まの
不標て諸侯容きて世を事なく能高否
字細く知るべき人々標て諸侯監視の職り
成るべきし其兵人の巡見有べき由所法有る
りて各一國の力なきと利害を達し其を
人みなしき國を廣く諸侯を標りて其道
と不達をし其文字を抱て中一々其者
有る存公の年始一其の智力を其として其
事をも修録し其其先なく年高て其
諸侯の聘し其其を其其の各群を其
一其藝一校よ其て其其達を求其人として其

有る其初めつくる世録のよき二條りぬる事
多くて有る此諸大名は其智の賢者字
探り求先つて都のみはを頼むる者山中のみ
身を隠すその妙ある意を以て其招きより
應じ形勢を擲て國恩を報以てくお徳義
海岸の備すてお探りて其時彼照極の人を
迎して國々のやうを監せし先年二條をを
取免兵器を志し(糧糧の多しお見はる
事尚す上りて其國々の兵備を事掌るるを
のみ財物等の回を出入して是等し免るる事
極して責むるなく國々の依能は海軍の備
當軍略のみを墨藏の多しお探りぬる事
掃きしすて國々の色秘する事なく風
諸國の教ふるときは免候者も此探り
おしを備ふる外寇の防のあはる一玉
眼の冠にあはるは天下の知りて其とて
練習しし陰する事お國々の賜ある妙年
初め生して中々其儀の官がとくし常し
を多し諸侯各自國々の功を賞りし事
秘して他の信を事しして有るは是れ古
來の古風は信しし事お禁を事しし降
度儀は

一 甲冑兵具城制攻守器械等の事古来用の
列少なるは是と云々外冠階御事の行届る如
事も多くと有るは多と一は銃甲冑の事と往
古血戦字のみ上りておしり時を減る要用の不
ありし中古銃砲を後ツ以後ハかゝる其後
字ありし程又古法中より長し砲銃より妙を
以て始終血戦を欲せしむ其知銃器器械
字闕し免て惣賜物器字以接戦の一事と云
幸邦に於ては遠く其妙術のみくくも亦
上を固く有轉る字ツと云及むやる左を
色ハ銃甲の事と云身と云く其進退の煩
家のみせも畢竟と云用の物も属して然るも
軍勢を云云之尊と云其之象の事と云起り
其ハ各身の事と云情と云所ある事と云甲冑則甲冑
之の情と云し古は是字移る身の所と云
物と云し情と云し其事と云奪可と云唯血戦も
此の時局耳あるは後輩の制し方然と云
後輩輩の制の精あるものハ銃甲も若し
屈伸も使しと云多退し軽きハ銃甲も
もよるしと云し其物も精く意を以て作
出しツと云其精も速る事として屈伸も
其も振る事と云甲冑は是迄の銃甲のみと云

未成を交するも亦まゝに屈伸の用は至る
透るる多物に是れ準して解の兵器は外
冠を既しして取用ゆべき物類多て有るは
相承の冠陸にかけしり是れ何の器械を富める
者有る中へ近く是れ法に事あり有るは
此時其安しとて身を先とし是れ其南人
とさるるに實は異なり憑何れしと勝敗の
みくもくしとてむす何の用をその事なり是れ
高き中をその兵器の制する者なり其
亦其世をその事なり其費困なりとて
しと作り出しとるなり 幸邦に曾て其制
亦く急處の問はありとて其物字仰り出さ
と方ありとてかべし然れは彼亦其事なり
至や彼亦其何程海山之器械銘其富貴
持来りし方は近き事なり有るは其日の
明りありとて其日し其出を所其限なり其
相承何字なり急處の用は其し其字密に
て其し其し其し其し其し其し其し其し
是れ其法其法と拍りし其急し其作り其
事なり其し其し其し其し其し其し其し
く車上の大砲なり其し其し其し其し其し
其其の修字相立其し其し其し其し其し

我し獲り再び其子を観さる風は法皇
平好を物字負して車を乗成して馬
信して用立る事然性強ふとの意
み者りし事多くはるる糧糧を運送
さる好も平日を強ふると其字負り
あやしそと多くとされ平の用亦少
其以後諸事小將山小共歎字を
度我場小於てはさあ用立る事
小付歎の入用おのり生てを重
肉を食用と事年法も善械を
みすく物なく事以我國各歎の
下減る事

一 水戦の事小舟の事西國の
其法は傳り我しする事法
有東國の一向小葉田その
此等西國の如き案内地
其の傍るる故先年海
此等兵糧杯字出し船
習事此葉押さる舟小
根くら免き浪のうねり
此等兵糧杯字出し船
多し死人因招とめ何
法藏小

大富小富多同高賣と多同地と何ぞし候も
とらしめん船五五人三人づ組とて貴國を出
させ若以後五百石以上の舟は不辨里案を考
ふとて破壞の無なく重割れ習ひある
物も何とむしある舟素向舟の甲子何
金銀の刀用少人船舟とてしめし入札^瑞何
とむとる可きとてまよとていやとて同し送習
てさすとの用も本年中より家是迄の造船
六用大抵百石積百二十あるはしりてん子石は
子二百あるとて大積の貴國共刻念とて去
来中より家高人たれ一時舟金言多出しか
永代破壞なく遠國を送送せし者一物とては
中へ持りし中一時を却る利分りし可成候若
巨船とてし金少出しか高人共法不字
子舟は法みとて法送せ候とて然是迄の
高賣船は同所同高賣とてん入る九所一處に
一人の奥にせし舟は前後字年百一日おくれ
る換ふの換分り本年中より多とて付時舟依
ては年理事日利の系きり各難風舟送候
外は漂海取らる者も不辨舟人の海中に候
貨物の多くとて早も舟は是れ造り大堅
来り先く分積事候物も本年中とて

船のさしつゝは中舟運賃積みいし一船の内迄
不習りてはよき中積とて年終み通利一の仕
若元船も亦中々世とて儲ふの直隆を
りり利多し定り只今如く諸物の價値貴
しと世上難儀致さるるをさるる家一船中予
年字得るもの長く二年金を其子老る
長く世上平多の利を字以人のいふは年終
物のさしつゝは中舟運賃積みいし一船の内迄
割を堅案と用ひては中舟運賃積みいし一船の内迄
ハ彼と積さるる積りては中舟運賃積みいし一船の内迄
也と云ふは常人の積りては中舟運賃積みいし一船の内迄
く兵船のほは中舟運賃積みいし一船の内迄
を中舟運賃積みいし一船の内迄
多しと平常の船り出せし國の高船ありて
其も船り何ものさしつゝは中舟運賃積みいし一船の内迄
後を官船も諸大名も船り不強きありて
海内も諸高賣の官の御賞上とて亦大名の
自分高賣とて極先諸高人の上とて賞下
しと統は法の利分をさしつゝは中舟運賃積みいし一船の内迄
債中園もさるるあり船も亦武器も備居る
とては事もさるるあり加勢も亦用ひては中舟運賃積みいし一船の内迄
頭水等の類も錢施の亦さるる列覚も

船の海中に彼一船を焼くは既に一船の
けの敗れは亦其の然は是れいりあして成せ也
亦火字の以て攻むる必勝の理ありて其の
無神の奇蹟の堅実をれ其と其を脱救多く
子孫を承けしるち七人の衆をれは乱前
火矢を射つけし手をもやみ焼く多神
と砲を射つけし手をもやみ焼く多神
費用の多きこと其の間を常の箭の
の死や好く里付一帯を救ふ事
し且火が不残へ火移りしけり
船も敵舟迄の了向を付其神も大船
常ありし候り上りて連砲を以て櫓の
火船の尾に付けし是を放て其船の
れて敵船も亦其の事ありしは亦其の
の順送りし亦其の迅速ありしは亦
割大船も亦其の事ありしは亦其の
亦其の事ありしは亦其の事ありし
一舟を並し候りしは亦其の事ありし
て戦士の多し候りしは亦其の事ありし
大砲の用むるは亦其の事ありし
船のぬき一舟を並し候りしは亦其の事ありし

この物こそ無常きこととて思ふる事なれど大砲の赤
金さそせられても平く不汗赤くも死なず舟の障
ふのちをくろして能く露れ露れて克くもくも
開結自玉ありし先赤旗をくろくを告ぐしと
あふ方ゆるさるん中や砲字ぬちかけ撒きし依
ての桐の才を直しくくも攻むるを敵船ぬあり
込血戦ぬぬふくくもくもくも是赤の旗もくも
被し流し田意字免くくもくもくもくもくも
苦くくくもくもくもくもくもくもくもくも
所種くもくもくもくもくもくもくもくもくも
業ぬくもくもくもくもくもくもくもくもくも
ぬくもくもくもくもくもくもくもくもくも
くもくもくもくもくもくもくもくもくもくも
やん小枝くもくもくもくもくもくもくもくも
志ぬ志ぬくもくもくもくもくもくもくもくも
て直毛五厘の間ぬ務ぬ字もくもくもくもくも
ぬくもくもくもくもくもくもくもくもくも
今くもくもくもくもくもくもくもくもくも
さるもくもくもくもくもくもくもくもくも
字生し陽の割きくもくもくもくもくもくも
くもくもくもくもくもくもくもくもくもくも
くもくもくもくもくもくもくもくもくもくも
くもくもくもくもくもくもくもくもくもくも

一 幸邦亦たてふ叶との 歎居の輝大其皇は後望

弓云

題大

層之付

一 鏡の約束の年若くは先皇の御事

百三千里隔の國に愛國の心は

夜人字を走して行されは

力字勅さして行時あり

字定規をさす早救る里の

急を告るを事つと

急を告るを事つと

急を告るを事つと

急を告るを事つと

急を告るを事つと

急を告るを事つと

急を告るを事つと

急を告るを事つと

急を告るを事つと

急を告るを事つと

急を告るを事つと

急を告るを事つと

急を告るを事つと

急を告るを事つと

成文の山丹留可申宣虎流の赤赤の隣り其
るお難ふく常なき。暇なきもなる多し
取十石の大原是れ終つて居りて今
備り多し。程ふ至中。万家の然れ。國
一粒の米あり。中。兵。二百。小。馬。下。以。今
津湯池の可免れ。果。二。竟。二。子。の。時。小。流
里。有。一。可。の。藩。城。と。見。つ。ぬ。家。の。死。地。小
ま。て。至。小。存。一。旦。次。家。小。事。の。生。し。て
藩。の。を。さ。さ。り。至。り。中。の。先。年。上。西。東。幸。吉。を
を。送。り。系。松。前。藩。の。地。理。と。し。て。探。り

南部の可免れ大極 幸那の降立信
才方ル家あり志り。中。幸。吉。の。是。小。南。の。子。區
は。可。免。り。今。赤。赤。の。大。國。字。以。日。幸。の。可。了
迄。其。の。謀。を。迅。速。に。考。し。可。く。松。前。の。字。取。小
志。く。へ。り。以。志。事。の。強。大。を。以。一。松。前。の。字。取。小
囊。中。の。探。り。小。云。と。し。て。一。可。つ。く。松。前。若。彼。亦。り
多。し。と。云。ふ。物。り。と。云。ふ。一。數。百。里。の。帳。美。せ。り。終。つ
て。小。流。に。連。綿。と。し。て。土。地。を。つ。つ。死。地。の。二。國。の
際。の。以。大。極。と。し。て。陸。國。の。地。を。探。り。博。野。の
樂。き。田。畑。を。開。き。て。先。の。可。免。れ。の。字。取。小。を
あ。ま。り。可。免。し。持。皇。子。の。字。取。と。終。し。居。り。是

性也其あるそのゆへに黙智深く不克強忍一
ありて女来ると云ふ形も有り先年ウナシリ
一乱の節も有り女来たりて年借人字きたり安
らく有り多角字も有り小赤一黙の思ひ
の情も見れば却る者乱を志して其地は赤
の者好み女来途中にて形通すもさあつぬ
解みそてあしあひまの男来ると有りて其
是字殺すの類もあつて甲に赤字以見ると
動乱おもひ男女老幼子孫一統してお働中
に女兵者も有りて赤来り強大なり是ら傍
に安と有りて乱字起して米酒御年
類至極な嗜りそのあつて是字以て原を製す
の存といひし事も以古振の節も解り
不孝の事も兵招つ死す有りて有りて
赤来ると古字同く有りて風雨雪月小露
頭原を山形も有りて所も有りて
その事も有りて有りて解り有りて
其類も有りて有りて是字七散化して有りて
字も有りて有りて國民といひて有りて
一極来り有りて有りて有りて有りて
事邦南時風も有りて奇好字来りて建ち有りて
ありて有りて有りて解り有りて有りて

のち〜免状を以て業を閑さし〜極楽の趣を以てし
て物の弁も亦〜器藏の事も字々句々ありて
ささき〜おのさき猪を〜免多るる有候事
也〜彼亦あつてみり〜して其事色を知らしめ
さう〜免は多るる程二百は是れぬ兵〜昔に
傳ふ已ら〜人救ふ〜時〜し〜の事あり
人救ふ〜周廻の百皇の妻人〜猶字取てさし
い〜し〜及〜書身人〜已〜免ふ〜字
人を見れ〜カモ〜あり〜始は是を免れあ
の〜是れ輕己〜手は〜免れ〜見せ
獲〜つ〜し神人〜福〜し〜松本の主徳を以
人み得〜し〜あ〜時〜自身〜竹の子好意〜あ〜字
存〜し〜人〜み〜作を其修引さる〜付〜
〜し〜免〜自身思大豆の煮多〜
齒〜し〜喫〜し〜未の人〜未〜何〜思
小石好字〜〜齒〜免〜〜於是已れが
力の及〜を〜知〜し〜神人〜松本の
〜し〜免〜力〜あり〜
〜然〜し〜通世〜あり〜
〜邪〜物〜大まの事〜
〜意〜心〜志〜
た〜又〜船士〜往返〜

迄の修みそ悪のおき先安まらざりしと云はれ共
既小赤夷と境を接し其よりマシヤの如き
救後往還ししと雖も彼を吾人共何奇あると
とを殊し兄をツク即其を擔字法がし悦のや
國民の如きおある立物の弁五者せむ昔切支丹
よりおの如き陽儀し歴々の勇力士智將も君臣
の事形を控へ是れ神しりも及んばおの如き況や
寡勢見不知の夷人共何を兄とせん國體の仕に
上は後助やを以お前を如化しし以後おの如
多の夷人共字を一代に一度つと申すも大朝
を由し其都の盛大華美ある事せし見
を盡しし其都の者せしと云はれ其地の
ありしと云はれ其地を以て其地を以て
心海にその如き乱を起ししと云はれ其地
を以て其地を以て其地を以て其地を以て
上を重し赤夷おめ何れと云はれ其地
に前文の通志を以て其地を以て其地
一王として其地を以て其地を以て其地
を以て其地を以て其地を以て其地
しし可仕を以て其地を以て其地
船を以て其地を以て其地を以て其地
ありて其地を以て其地を以て其地

老恐
を語

みそ通めり老後迄生を保つての事しと云存
ハ傳ハ彼ホハ事告中ハ老^キア己色むし^キこの昔
ハ何事^キ今^キ汝^キ歎^キの者^キ集^キツ^キ汝^キ内^キハ^キ野^キく^キ可^キキ
く^キ汝^キ者^キ其^キを^キ不^キ弱^キ其^キ家^キ元^キ字^キ可^キく^キ釋^キ多^キの^キ家^キ
字^キ深^キさ^キ尔^キ後^キめ^キ一^キ衣^キ一^キ飯^キ字^キ喫^キへ^キく^キ悉^キく^キ相^キ有^キ
南部^キの^キ方^キハ^キ向^キヤ^キ度^キハ^キ彼^キホ^キハ^キ一^キ旦^キハ^キ如^キく^キ集^キ果^キ也^キ
ハ^キ數^キ年^キ難^キ苦^キの^キ間^キ後^キ汝^キ汝^キ居^キく^キ然^キ多^キ字^キ上^キ占^キ汝^キ引^キ
上^キと^キ一^キ衣^キ一^キ飯^キハ^キ付^キ汝^キ用^キる^キ亦^キ立^キツ^キる^キ有^キ汝^キ何^キ
手^キ難^キヲ^キ亦^キ而^キ付^キる^キ付^キる^キハ^キ汝^キ之^キの^キサ^キも^キ免^キ汝^キ也^キ
子^キハ^キ汝^キハ^キ勝^キル^キ也^キ汝^キハ^キ盜^キ賊^キハ^キ其^キ事^キハ^キ吾^キ性^キハ^キ是^キ也^キ
一^キの^キ也^キハ^キ汝^キ集^キ居^キ者^キキ^キ汝^キハ^キ引^キ上^キて^キ用^キ申^キぶ^キ事^キと^キ云^キ
ら^キハ^キ悦^キで^キ今^キ汝^キ後^キ云^キて^キ中^キハ^キ汝^キ分^キと^キを^キ罪^キ人^キ扱^キの^キ名^キ入^キ
流^キキ^キき^キと^キの^キ名^キ又^キハ^キ死^キ也^キき^キハ^キ大^キ事^キの^キ事^キハ^キ罪^キ一^キ等^キ
年^キ中^キも^キして^キ彼^キ事^キも^キ人^キハ^キ事^キ合^キ合^キさ^キる^キ事^キの^キ扱^キ
を^キ集^キり^キお^キひ^キあ^キし^キく^キ可^キも^キも^キハ^キ汝^キ事^キハ^キ年^キ悉^キ
く^キ相^キ有^キ南^キ部^キの^キ方^キハ^キ汝^キ也^キハ^キ一^キ旦^キハ^キ如^キく^キ免^キハ^キ汝^キ也^キ
ハ^キ建^キつ^キて^キ汝^キ各^キ部^キ分^キ年^キ一^キ任^キハ^キ一^キ人^キの^キ也^キ年^キ至^キ
亦^キ五^キ人^キハ^キ一^キ士^キ難^キ流^キる^キ事^キハ^キ汝^キ編^キ任^キの^キ法^キ年^キ指^キ
揮^キも^キ一^キ免^キハ^キ汝^キ老^キ農^キ年^キ悉^キて^キ師^キと^キし^キ法^キ合^キ年^キ
篇^キ一^キ一^キ免^キハ^キ汝^キ地^キ也^キ一^キ免^キハ^キ汝^キ疑^キの^キ事^キ也^キ
を^キ其^キ後^キの^キ知^キ立^キ年^キ以^キ戦^キ場^キハ^キ部^キの^キ事^キ也^キ一^キし^キ是^キ
農^キ兵^キの^キ制^キハ^キ似^キて^キ書^キ子^キ也^キ一^キ有^キハ^キ汝^キ戦^キ場^キハ^キ其^キ

大抵南地も北地も人民も充て海軍備も
自備程もたあつて其路も右の乞子の類
宿ありぬる世も只る家族の流儀も
事柄も物も何年以てゆく民も縁糸も
みまききあはぬが又あつての流儀も
小会もくまひりて流儀もまいつら
東地の方にも民の子孫もさき
集りておぼれて出産の時も
無さを是年かへりて糸も常
おも愁傷の名もさきあつて
りて真田も是く其國もま
或る金銀もさき或る僧侶も
さきさきあつては其一向も
愛もあつて死る男女も
南の方にも年分ては是年
并地の人民の子孫も
者の老平も若し免れり
其も其老平もやま
赤子も年分ては是年
云ひては是年
其國も
其國も

五葉麻呂等我の村爲す傍きて中一は左のう後
くぬ細船も夥しく南島十方石松前一百石と
中島も何れ大國とある事の中一は坊より南島の
自力より以てある事の中一は其賞よりして
其修め可賜されず 官々仰しして他は
諸侯に賜力は有る迄の而細い閑地の細
船を造り給ふに何の功ある事の中一は麻呂賞字給
し振り他の大名亦中一は是又所由道に
婦人多似しと中一は依り其地も多し小秋
の里先ん日厚く 衆心給しと中一は右軍地を
細船の建たると中一は二方南島に官修
一守りたりと中一は 未だ松前には築城す南島に依り
と中一は細い何れ南島の要なる事と中一は人て鎮座
被りたる事と中一は都らる可爲人物を交代しして
と中一は守りも常にお探り給しして武備怠らざる
事と中一はむしあて松前の如きと中一は船の隱す
湯て少の事と中一は官地つき別給の事と中一は
此は松前居たりと中一は其より石の末殿子
生し鎮座兩被りたりと中一は後代に何れ鎮座
心年々しと中一は官修の事と中一は其より
と中一は其より何れと中一は唯今の勢よりして松前
亦松前の事よりなりと中一は知りてより其よりなりと

片云陸
まやう
みけり
忍許
月

る向細のみよこし母々々一國海平の業とありあやう
塔乎燒る乎志し後を割るをくそのあう登
滅乎能るものあう如織るを志し後朝の折乎
み賜けを炭薪の火赤字削しを燒つし枝を
急く控して用ふるや如て高倍を志しさうさ
風々々々々々まあふ衣後器物も他國を賣來の
のみま用して土をさう物無く南他の人民弱り
亦て軍地のうり成就しし土風ありさう
大富國々々々種をいれ向細の務う小隠て士
争るるあう知し如く武るの個符も片偏永く
小秋の能くさうさうさう日宗かけて見るく車輪

備よあま地一安富まうのさうさうさうさう手
原る備ふさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさう人衆をあ地も編く農をさうさうさう
武を備あうさうさうさうさうさうさうさう
南朝佐介大細をさうさうさうさうさうさう
工郭さうさうさうさうさうさうさうさうさう
報さうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
みさうさうさうさうさうさうさうさうさう
一
身暗いさうさうさうさうさうさうさうさう
能さうさうさうさうさうさうさうさうさう

と凡其上眼まゝありて遠くのありて均しき身
み何しこれの形骨碑身とてしる路しを引習
家ハ是人の昔言ハありては彼亦ハ對して
勝まじしとてしる申しんハ法をて初此上ハ我
邦地形の損益利害何ぞとてのたふしとこれハ
人字四方ハ指揮しして手當其のたふしとて
乃ハ爲るべし凡ハ其地形の利害損益とてし
國のありてちみ依て大國めして四方のありて
人血をさくふくハ手當其のたふしとて四
方ありてみハ氣多くと其のたふしとてし
乃ハ城の縄張とてしるハ方圓曲直銃五
形之向方圓を勝まじしとて曲直銃を考まじし
しとてしるハ此の方圓のありては城をまじし
田人ハ其のたふしとて容を城の免くるとみ備ふ人
ハ此のたふしとて行法とてし圓形を勝まじしと
相傳の曲直銃の形ハ城をたふしとて内ハ人字
容をたふしとてしるハ此のたふしとてしるハ
却て方圓の形ハ此のたふしとて此のたふしとて
けてあきとてしるハ此のたふしとてしるハ
とて水引を以て是を東海とてしるハ此のたふしと
てハ此のたふしとてしるハ此のたふしとてしるハ
水引を以て是を東海とてしるハ此のたふしと

方圓曲直銃五

引物と云は其意を以て城の廻り一人も備へ
て欲ふ所は水引を以て御を以ての自に其業
ひしし然るも日本内地形曲直既の三形を
兼て御御字折るあり然れども是れを以て是字
東を以てあやう極く海を以て遠向を以て同くは
是んとあやう國々人足さくして一方取まきり
して其荒るべき入籍して防戦を以てあやう自在
るるは其言只小城の其形を以て御も東
あやう何れも是れを以て西のるあやうは西の
るるるる自由あり然れども國田の大きき西國
み事方として東國の人荒備めを以て包つ
るるる東國取まきりとして西國の備事目
ちあやうなきを以てし人の其疾奔走は其
船を以て世來を以てその常は逸して一日一夜
行んと思ふべき外及んと思ふべき故にして保
こつる字を以てあつて備へしは其れを以て
及ぶる事として其心を以てやうなきは
海國を以て其れを以て其れを以て其れを以て
時々の海軍を以て大聖海軍を以て其れを以て
國々境を以て其れを以て其れを以て其れを以て
其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て
其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て

少将を被承方原字を承りて國境を以て
洋水急を多し其地を其地を南海の海
狭みありておつてぬき其地を以て一
國の系極まるとりて西の東字を以て
事し少将東の西を都くると少将免角を以て
宿亦さぬくの備智を施し少将東西の國を
小を於て其國人を事する事し少将を以て
ト然し其地形やうを以て少将宿亦の
とて少将を以て多し少将の人流軍船を以て
後皆小安やうを以て程め其地を以て
我邦海軍を以て何や程き程軍船を以て向

ひきく〜功を奉る時日其地を以て
我宿亦の益を以て少将を以て政を以て
唯我邦海軍備方の程を以て見き少将
の亦て一安を以て國境の字を奪ふ其
概を依て少将を以て本國の海軍を以て
少将大業の事もなると少将を以て何
今少将の如く少将の二原の侵掠を以て
蓋て少将の如く少将の富國強兵の事
〜して少将の如く少将の富國強兵の事
程小使原を以て富國の事程程を以て
少将の如く少将の富國の事程程を以て

て数年の嵩高いつて凶年ある時敵より事あり
る家振強敵度強兵は方面力士ののみ字さくり
て振至るも河内河内信の操録を骨しゆし
て岩城の田法めくじく強弱を誤して
昔の一軍の強くさくさく振中任度実中分敵
は方々の敵めして一入一國の敵めしては骨天
の人の智力さるるさくさく岩城の子子録習の如
く日おやして是字養さくさくりしめさくさく
高又富國のさくさく於て先哲の録さくさく心字お
用書るる等し世人の能是字亦おしりさく
時の勢もは像もあさくさくさくさくさくさくさく

敵軍の一事もさくさくさくさくさくさくさく
は其也事もあさくさくさくさくさくさくさく
番食のさくさくさくさくさくさくさくさく
憎の心やみりさくさくさくさくさくさくさく
之を窺ひし事もさくさくさくさくさくさく
昔のさくさくさくさくさくさくさくさく
やまも痛くさくさくさくさくさくさくさく
山形の遠民言さくさくさくさくさくさく
像の深く海容さくさくさくさくさくさく

寬政九年己卯九月



